

公立福生病院等での新型コロナウイルスワクチン接種について



正和会
小林 貢 議員



質問 6月から集団接種と医療機関での個別接種が始まるが、公立福生病院等での接種について伺う。

市長 個別接種は、まずは公立福生病院で6月10日から実施し、その他の医療機関も体制が整い次第実施できるよう調整している。副反応への懸念等でかかりつけ医による接種を希望する声もあることから、市内の医療機関での個別接種を円滑に実

施するため、適切な支援を行う。

福生第七小学校南側の五日市街道について

質問 福生第七小学校南側の五日市街道は、カーブの坂道で歩道幅が狭い。また、法務局入口交差点上には歩道橋があるが、昇り降りが難しい高齢者等は利用ができず、横断歩道のない東西方向への横断が見られる。五日市街道、田園通りでの交通安全対策の取り組みを伺う。

市長 当該箇所は平成24年度の緊急合同点検の結果を受け、ガードパイプの延長と転落防止策が設置された。さらに車道への自転車ナビマークの設置や車両の速度を抑制するカラー舗装等、安全対策と事故防止に努めていただいている。横断歩道のない箇所の横断は、都や福生警察署に対策を要望し、市としても高齢者の交通安全意識の啓発活動に努める。



▲福生七小南側の五日市街道と歩道橋

児童発達支援について



正和会
武藤 政義 議員



質問 発達に課題がある子どもへの本市の具体的な支援について伺う。

市長 健康課で実施する3歳児健康診査等で発達に課題があると思われる場合、心理相談を経て、月に1回実施している乳幼児発達健康診査につないでいる。子育て世代包括支援センター系では、臨床心理士等が定期的に保育園等の巡回相談を実施。保護者との面談を通じ、子どもの発

達の理解を深めていく中で、保護者が希望した場合は児童発達支援事業を案内している。児童発達支援事業所では、日常生活の基本的動作の習得など個別療養プログラムを提供。地域の中で健やかに育ち、能力や個性を伸ばせるよう努めている。

道徳教育について

質問 新教育長の着任により、教育委員会がどのような道徳教育を推

進していくのかを伺う。

教育長 子どもたち一人ひとりが生命尊重や思いやりなど、道徳的価値に関わる狙いに照らし、自分の生き方の中にある内面的な課題について深く感じたり、考える授業を推進していく。道徳授業地区公開講座も継続し、学校・教職員が保護者・地域の皆様と協働して子どもたちの道徳性を育てていきたい。



▲教職員向け指導資料「道徳科校内研修ノート」表紙

福生駅西口地区公共施設整備と運営について



生活者ネットワーク
三原 智子 議員



質問 5月に福生駅西口地区公共施設整備実施計画が策定された。本施設の整備・運営の考え方を伺う。

市長 整備は準備組合の提案を市が策定する都市計画に反映させつつ、再開業事業の一環として進める。施設の設計、施工は準備組合が選定した特定業務代行者等が行い、整備後の施設、建物を市が取得する予定。将来、運営を担う指定管理者交渉者

と特定業務代行者は準備組合が選定する。市は選定に参画するほか、選定後は指定管理者交渉者の提案を基に運営内容を検討、基本設計等に反映させて施設整備を行い、整備後はモニタリング等を通じ内容の向上に努め、整備から運営まで関与する。

質問 事業者から良い提案を受けても、施設整備の予算とのすり合わせは難しいのではないかと

企画財政部長 運営内容の協議結果の反映は、予算規模に留意し行う必要がある。予算規模は、現時点で福生駅西口地区公共施設整備実施計画で見込んだ概算事業費である。準備組合から今年10月を目途に市が取得時に支払う負担金の概算が提示される予定で、精査の上、市、準備組合及び事業者が共有することで過度な財政負担にならないよう努める。



▲福生駅西口地区公共施設整備実施計画に掲載された整備のイメージ

ウォーカブルなまちづくりについて



正和会
佐藤 弘治 議員



質問 国土交通省はウォーカブルな（歩ける）まちづくりとして、都市再生特別措置法（ウォーカブル推進法）と道路法の歩行者利便増進道路制度（ほこみち制度）の改正を行ったが、本市での取り組みを伺う。

市長 本市のコンパクトさを生かすため、都市計画マスタープランで歩行者中心のまちづくりを掲げており、令和元年10月に国土交通省のウ

ォーカブル推進都市となった。取り組みには福生駅西口の再開業事業や東口の富士見通り線の拡幅に合わせた歩道整備による回遊性向上等の計画がある。現在策定中の新たなマスタープランにもウォーカブルなまちづくりの推進を盛り込んでいる。

質問 ほこみち制度とウォーカブル推進法のまちなかウォーカブル区域を併用すると相乗効果が大きいと

いうが、その具体的内容を伺う。

都市建設部長 道路の占用基準、期間の緩和、都市再生推進法人による手続面のサポート等で道路空間の活用が行いやすくなり、民間によるオープンスペースが提供されるなど、まちの活性化に合わせ歩行者の利便性や安全性の確保などが期待できるが、事業推進には歩道の有効幅員の確保や地域の協力など、課題も多い。



▲占用特例許可による道路の利活用の一例

新型コロナワクチンの接種について



公明党
原田 剛 議員



質問 医療従事者、高齢者施設、65歳以上の高齢者の接種状況と7月までの高齢者の接種見込みを伺う。

市長 医療従事者等への接種は、6月2日までに2回目が完了。高齢者は75歳以上の方の接種を5月8日から開始、31日までに2609名に1回目を実施。高齢者施設等は5月12日より順次開始。高齢者の接種は希望者が7月末までに2回分を終えられ

る体制を構築する。

温室効果ガス2050年実質ゼロについて

質問 2050年までの排出実質ゼロ達成への市の取り組みについて伺う。

市長 平成15年度に策定した福生市環境基本計画に基づき、福生市地域新エネルギービジョン及び詳細ビジョンにより削減目標を掲げ、市独自の環境マネジメントシステムF-

eの取り組みにより、CO₂排出量の削減目標に向けて市民監査委員と共に推進している。さらに現在開催中の環境フェスティバルを契機に、一般家庭や市内事業者への働きかけを一層促進する。令和4年度から2か年で実施する環境基本計画の見直しの中で、国や都の脱炭素に関する動向を踏まえ本市の取り組みを考えていく必要がある。



▲6月に開催したふっさ環境フェスティバルのポスターとステッカー